

Contents

❖ 会員企業インタビュー	1・2
❖ 活動報告	3
❖ これからの活動(イベント)情報	4
❖ スタッフ紹介	4
❖ 編集後記	4



デリカウイング株式会社

会員企業インタビュー

デリカウイング株式会社は前身のヒロシマフーズ株式会社の時代も含めると今年で創業46年目を数え、大手コンビニエンスストア向けに弁当、総菜、デザート等の製造を行っています。品質管理の徹底と美味しさ維持の実現を迫るとともに常にお客様のニーズを満たす商品開発に余念がありません。

今回の「つながる」では、デリカウイング株式会社の細川代表取締役会長にこれまでの事業展開や人材育成の取り組み、またフェニックス協力会に期待すること等幅広い内容でインタビューを行ないました。



デリカウイング株式会社 細川会長

ーデリカウイングがどんな会社か教えてください。

中国地区のセブン-イレブンのお店に弁当、おむすび、サンドイッチ、総菜、デザートを開発、製造、納品しています。地域で馴染みのあるメニューの開発や衛生管理には力を入れています。新規性のある商品開発力は高い評価を受けており、これまで順調に売り上げを増やすことができました。

ー細川会長はもともと広告代理店にお勤めだったとお聞きしました。食品製造業に関わるようになったきっかけは何ですか。また、前職の経験が役に立つことはありますか。

大学卒業後は、広告代理店に勤めていました。もともと文書を書いたり、絵を描いたり、クリエイティブなことをするのが好きでした。また自分が創ったものに対する皆さんの反応をみるのも好きでしたので、コピーライターは天職だと感じていました。

そんな私ですが、ある時上京してきた父と家業の経営状況について話す機会があり、当時あまりうまくいっていないことがわかりました。そこで、これまでお世話になったことに対する親孝行の意味も込めて父の会社を引き継いだのが食品製造業と関わることになったきっかけです。

当初は弁当箱に日替わり弁当を詰めて毎日配達するという日々を送っていました。しかし、残飯が多く残念に感じていましたので、残飯が残らない努力をしました。

広告は視覚と聴覚に訴えますが、弁当は、味覚、嗅覚、触覚を含んだ五感に訴えるコンテンツです。ただ、おいしい弁当を作るだけでなく、盛り付けはどうすればキレイに見えるかとか、季節の行事があるときはそれにまつわる食材を入れるなど工夫しました。また、蓋を開けたときにお客様はどう喜ぶかなど考えていました。

<裏面に続く>

今では普通かもしれませんが、当時は他所にはないような弁当をつくっていました。工夫をすると少しずつ注文が増え、売り上げが伸びてきました。また時々、返ってきた弁当箱に感謝のメッセージが入っていることがあり、お客さんから良い反応があることが嬉しかったです。このように広告で学んだことは弁当を作る際にも随分役立ちました。

—御社のコーポレート・スローガンは「Happy Together」のようですが、社員教育や労務管理の観点から気をつけていらっしゃることはございますか。

私が36歳で社長になった時の社是は「共存共栄」でした。しかし、会社は潰れかかっていた。経営者の役割とは何かといろいろ考えましたが、私が得た結論は、会社は働く人をハッピーにするためのツールだということです。社長には3つのミッションがあると考えています。1つ目は、会社を絶対に倒産させない。2つ目は、社員を公平、かつ高給で遇する。3つ目は、社員を他社でも通用する人材に育てる。一見ありふれたフレーズですが、単に社員だけではなく、取引先であるセブン-イレブンのお店やお客様、それに仕入先や地域の方々までも含んでいますので、実は意図するところは遠大なのです。

学歴や年齢に関係なく、実力のある社員には責任あるポジションを任せています。デザート工場を立ち上げたときの工場長は高卒で28才の若者でした。周りからの反対もありましたが、今では売上の重要な部門になっています。また、その彼が現在当社の代表取締役社長になっています。パートの方には、給与以外で給与に匹敵するものをあげようと思い、ハワイ旅行をプレゼントしています。おかげで皆さんの仕事を頑張ろうというモチベーションに繋がっています。

—今の学生についてどんな印象をお持ちですか。

こぢんまりとしている気がします。もっと馬鹿でもいいんじゃないかと。馬鹿だからこそできることもあると思います。安全を考えすぎ。そんな人生で楽しいのかな。

高校時代サッカーに明け暮れていたもので、成績はいつも最下位の方でした。当時は皆から勉強していなかったら将来泣くようになるぞと言われていました。

しかし、今では東大に入った同期から、今はお前が一番楽しそうに生きているといわれます。この歳になった今でも仕事があることに本当に感謝しています。道は一つではありません。若いうちから固定観念に縛られるのはもったいないのではないのでしょうか。高校の同級生で他に事業を立ち上げたのは、野球部の落ちこぼれ。イタリアに工場を作って現在忙しくしています。みんなに起業しろとはいいませんが、同じ生きるなら、悔いがないように生きべきだと思います。

—フェニックス協会のサービスについて、ご意見をお聞かせください。

フェニックス協会のサービスについては、まだそんなに把握していません。たまたま広島の産学連携の取り組みに関わったことのある義理の娘から良い会だと紹介されたので入会することにしました。当社は東広島に工場を建設する予定にしています。東広島には広大を始め、近畿大学工学部や広島国際大学があります。私は広島国際大学で年に数回講義する機会がありますが、以前学生と話したところ、アルバイト先がなくて困っていると言っていました。東広島には多くの学生や留学生がいますので、彼らに対するアルバイト先の提供という意味からも貢献できるのではないかと考えています。フェニックス協会との付き合いはこれからになりますが、様々な情報を提供していただけるものと期待しています。

チャンスは目の前にいくらでもありますが、それをモノにすることができるか否かは、お互いが一步踏み込むか、傍観するかの違いだと思います。ですから、是非踏み込んでいきたい。そうすると、化学反応が起こり、何か生まれてくると思います。それがビジネスそして人生の醍醐味ではないでしょうか。

—本日は貴重なお話を聴かせて頂き、誠にありがとうございました。

インタビューを終えて

誰もが利用するコンビニエンスストアの弁当や総菜、デザート。これらの商品がどのようなプロセスを踏んで店頭で並ぶのかよくわかりました。また、商品開発や人材育成に係る取り組みについて知る機会となりました。今まで以上にコンビニの食品が身近になった気がします。広島大学フェニックス協会は、引き続き地域企業のために役立つサービス提供に努めて参ります。

(インタビュアー：森 正樹、奥原啓輔)



第18回広島大学フェニックス協力会事業 「研究紹介と交流のゆうべ」を廿日市市で開催しました

広島大学フェニックス協力会は平成29年12月15日（金）に廿日市市商工保健会館にて「研究紹介と交流のゆうべ」を開催しました。

「研究紹介と交流のゆうべ」は、地域企業の皆様と広島大学とのより一層深い繋がりを求めて、年に2～3回広島県内を巡回し、地域企業（特に中小企業）の皆様へ、広島大学の研究活動や産学連携のポイントと紹介するものです。

廿日市市には食料品製造業の集積がみられ、2020年までに食品製造・加工、調理、販売等のすべての食品事業者を対象にHACCPの考え方にに基づく衛生管理の実施が義務化される予定であることから、今回はHACCPの意義と義務化に向けた国の動向、食品品質管理の中で最も難しい課題である微生物制御と植物の抗菌性に着目した研究成果について広島大学大学院生物圏科学研究科の中野宏幸先生にご講演いただきました。

当日は、地元企業や行政機関の方々など多数ご来場いただきました。また、その後の交流会も盛会裡に終了することができました。当日ご参加いただいた皆様方や事前準備にご協力いただきました廿日市市の関係者の方々には改めて感謝申し上げます。



交流会の様子

高校生が地域の企業が抱える課題を解決!? イノベーション教育ワークショップを開催しました

平成30年2月3日（土）、サイエンスパーク内にある広島大学イノベーションプラザにて、広島市立工業高校、広島県立西条農業高校の、合計25名の生徒のみなさんにお越しいただき、第1回 イノベーション教育ワークショップを開催しました。

イノベーション教育ワークショップの目的は、広島大学が中心となり、県内の中高校生と地域企業とを結びつけ、豊かな発想力をもつ中・高校生と地域企業が一緒に課題の解決策を考えるプロセスの中で新たな価値を創造することです。

この度は、地方の高校生のアイデアをもとに企業にイノベーションを起こすことで、地方を活性化する取り組みを全国で展開されている：一般社団法人iclub 代表理事の小川悠さまをファシリテーターとしてお招きし、グループで活動することの意義、アイデア出しの作法といった、基本的な部分から丁寧にご教授いただきながら、丸1日かけて解決策を考えました。

今回の課題は、ジャムでおなじみのアヲハタ株式会社さまにご提供いただきました。当日お越しいただいたアヲハタ株式会社 経営本部 専門研究員 干野隆芳さまには、アヲハタのジャムのおいしさの秘密や抱える課題をお話いただきました。ジャムが高校生にとって身近なものであることから、生徒たちのジャムとの思い出を語り合ったり、寸劇を交えながら新しいジャムの価値を生み出しました。



開催挨拶



アヲハタ株式会社 経営本部 専門研究員
干野隆芳さま

これからの活動(イベント)情報

フェニックス協会の今後の活動予定をお知らせいたします。ご興味をお持ち頂けたイベントにはぜひご参加下さい。

3月

1 第8回 広島大学フェニックス・サロン「ラテンアメリカ」

日時 平成30年3月20日(火) 13:00~17:00

場所 メルパルク広島 (広島市中区基町6-36)

- タイムテーブル
- 13:00~13:10 開会あいさつ
 - 13:15~13:45 メキシコ国立自治大学(UNAM)
起業家教育担当 Mtro. Eduardo Urzúa Fernández
 - 13:45~14:15 コロンビア国立大学(UNC)
起業家教育担当 Prof. Luis Alejandro Rodríguez
 - 14:15~14:45 ペルー国立サンマルコス大学(UNMSM)
国際化担当 Econ. Juan Diego Zamudio Padilla
 - 14:45~15:15 ボリビア サンタクルース工科大学(UTEPSA)
研究担当 Ernesto Viscarra Riveros
 - 15:15~15:30 coffee break
 - 15:30~16:00 キャステムコロンビア S.A.S ジェネラルマネージャ 登 勇氣
 - 16:00~16:30 広島大学大学院生物圏科学研究科 教授 三本木 至宏
 - 16:30~17:00 パネルディスカッション
 - 17:15~懇親会 (会費:1,000円)

フェニックス協会についての入会方法および活動情報は <http://kyoryoku.hiroshima-u.ac.jp/> をご参照ください。

■ コーディネーター紹介 no.17



眞銅 淳夫 Shindo Atsuo

担当業務: 技術相談、教員紹介、共同研究受入れ、
公的資金応募相談

技術分野: 技術マーケティング (ニーズ・シー
ズの探索と融合)

職歴等: 食品メーカー (洋酒・食油)、軽金属
メーカー、市場調査

ひとこと:

食品メーカー(洋酒・食油)と軽金属メーカーで技術マーケティングによる内外の資源融合など多くの新規開発を手掛けてきました。また、公的機関の専門職など幅広い事業領域にて企業の経営支援もしてきましたので何なりと気軽にお声掛けて下さい。※家が大阪のブドウ兼業農家でアグリ関連も歓迎です(シニアワインアドバイザー)。

TEL: 082-424-5283

E-mail: ashindou@hiroshima-u.ac.jp

編集後記

昨年からは広島大学でお世話になっております。当初は右も左も分からず戸惑いばかりでしたが、まわりの方々から優しくご指導いただき、やっと業務にも慣れてきたところです。大学には本当にいろいろ方や施設があり、日々驚きに満ちています。この驚きを何に例えることができるのか私なりに考えたところ動物園のことを思いつきました。

動物園にはいろいろな動物がいますが、大学にもいろいろ動物いや先生がいらっしゃいます。論文や研究をたくさん行う方がいらっしゃいますし、そうでない方も……。今回初めて西冬の冬を経験しましたが、あまりの寒さに冬眠したくなりました。しかし、先生方同様冬眠しないように頑張ってお参ります。今後とも、本誌「つながる」をどうぞよろしくお願い致します。(M.M)



発行: フェニックス協会事務局 (広島大学 社会連携グループ内)

〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号 TEL: 082-424-5871 / FAX: 082-424-6189 / E-mail: syakai-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

お問い合わせ先: 広島大学 産学・地域連携センター 産学連携部門

〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号 TEL: 082-424-4302 / E-mail: techrd@hiroshima-u.ac.jp